

---

# 天使憑き

夢籠真琴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天使憑き

### 【Zコード】

N6437Z

### 【作者名】

夢籐真琴

### 【あらすじ】

男に天使が憑いた

序章で殺されてしまった彼

その彼を見る眼は！？

天使が憑いた彼が目にするものとは！？

天使と紅い服の者の正体とは！？

天使憑きの彼の世界が始まる

## 序章

彼がその異変に気づいたのは  
高校からの帰り道であった  
何かが変だつた  
いつもの帰り道  
いつもの自宅への登り坂  
「な・・・・！」  
音が聴こえない  
匂いがしない  
視界ははつきりしない  
いや見ているものがまるでテレビを通して  
見ているような感覚  
そして手足は自分の思いとは反対に  
止まらない  
歩き続ける  
右から車が  
急ブレーキをかけられる  
しかし車は急に止まれない  
体は宙を浮いて壁にぶつけられた  
痛みを感じない  
車から男の人が降りてくる  
何か言つている  
しかし聴こえない  
口を見ていると  
「だ・い・じ・ょ・う・ぶ・か」  
大丈夫か？  
いいや、大丈夫ではない  
身体からは大量の血が

「ああ、死ぬのか

意外に早かったなあ」

意識が遠くなる

自分が悪いのにこの人に迷惑をかけてしまったな

薄していく意識の中

相手のことを考えている自分がおかしかつた

毎日疲れてた

一眠りするか

彼は自分が死ぬのに未練を感じなかつた

そして眼をとじた

野次馬が集まつてゐるところを

遠くから見つめている者がいた

それは閑静な住宅街とは遠く離れた

学校の屋上だつた

フェンス越しに見ていたが

やがて興味をなくしたのか

紅い服をひるがえして

校舎の中に帰つていつた

## 天使との出会い？

彼は目が覚めた  
寝かされていた  
助かったのか・・・?  
そう思いながら天井を見上げてみると  
病院にしては天井が高かつた  
ここは何処だ?  
そう考えながら  
まず上半身をしていてみた  
体が動く  
その事を確認するとなんだか嬉しかった  
体が自由ということはいいことだとしみじみ思つた  
彼は立つて周りを見渡してみた  
そこは驚くことにわゆる

神殿

と呼ばれる場所だとわかつた  
神々しい感じがした  
「やっぱり死んだのか」  
そう思い見惚れないと  
「うお！？」  
後ろに女の子が立つていた  
同級生ぐらいだろうか  
顔立ちは整つており  
一般には可愛いと言われるであろう  
これが天使だろうか  
そう考えた途端

「おめでと～」

いきなり少女（天使？）が声をかけてきた

「君は千万人の一の確率に抽選であたりました～～～

妙に嬉しそうな声でいきなり言われたので  
頭がついてもいかなかつた

「何に？」

ごくごく普通な

そしてまともな

当然の疑問を天使にぶつけてみた

## 天使との出会い？

その疑問に彼女は絶望的な答えを返してきた  
「君、宮西零君を生き返らすことにしてたよ～」

ここまでまだまともだつた

生き返らすことは絶望的ではない

問題はこのあとの彼女の言葉だ

「私が零君を殺したんだ～」

・・・ 聞き間違えか？

この子が僕を殺したのか

「だからって悲觀しないでね～私がもう一度

現世にしていてあげるから～」

殴り倒してもいいだろうか？

温厚な性格だと自負しているけど

そこまで勝手に殺されたくない

ついでに殺されてすぐに生き返りたくもない

「じゃあ一緒に現世に戻ろ～」

ちょっと待て

手を挙げてみる

「はい、宮西零君」

こいつは教師か

「君は誰？ここは何処？現世に戻るってどうせいつって

我ながら簡潔に3つに絞つて質問できた

その答えは

「え～と一つ目からいくね

私はドロシア ドロシーって呼んでね

2つ目はここはいわゆる天の国ね

3つ目は魔法で帰るわ

なるほど

つて納得できるか

「ああ、忘れてた 零」

いきなり呼び捨てですか・・・  
「眼と鼻と耳 どれがいい?」

「じゃあ眼で」

何となく答えてしまった

「さすが零君 見込んだだけのことはあるわ」  
意味を問おうとした途端  
何かに吸い込まれていった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6437z/>

---

天使憑き

2011年12月21日20時56分発行